

<WYSHパソコンサイトのスマートフォンからの閲覧率>

調査期間：2010年4月1日～2011年3月15日

対象URL：<http://www.wysh.jp/youth/>

		セッション	セッションあたりの閲覧 ページ数	平均サイト 滞在時間	新規セッショ ンの割合	直帰率
1	iPhone	633	2.56	0:01:18	92.73%	57.82%
2	Android	138	3.56	0:01:31	94.93%	57.25%
3	iPad	38	3.82	0:02:12	78.95%	47.37%
4	iPod	31	2.19	0:01:16	100.00%	61.29%
5	NTT DoCoMo	11	4.27	0:02:58	90.91%	18.18%
6	SoftBank	8	2.12	0:02:14	75.00%	25.00%
7	BlackBerry	3	3.33	0:02:08	100.00%	66.67%
8	Windows	3	2.67	0:01:19	100.00%	33.33%

<スマートフォン閲覧者の閲覧状況のPC閲覧者全体での割合>

セッション	セッションあたりの 閲覧ページ数	平均サイト滞 在時間	新規セッションの割合	直帰率
865	2.78	0:01:24	92.60%	56.53%
サイト全体の セッション数 10,498: 8.24%	サイトの平均: 3.99 スマートフォンの方が 閲覧ページ数↓	サイトの平均: 00:01:57 スマートフォン の方が滞在時 間短い	サイトの平均: 83.57% 新規セッション数はスマー トフォンが多い	サイトの平均: 47.57% スマートフォンの方が直帰率 が高い

同時期の全体セッション数は 10,498 でそのうちの 8.2%にあたる 865 がスマートフォンユーザーであった。スマートフォンユーザーの特徴は PC ユーザー全体と比べ、新規セッション数は多いが、平均ページ閲

覧数、平均サイト滞在時間はやや少なく、直帰率も高い傾向が見られることから、現時点のスマートフォンユーザーはこのサイトの予防情報ニーズがそれほど高い集団ではない可能性が示唆された。

<スマートフォン月次アクセス数の推移>



月次アクセスを調査するとスマートフォンユーザーが本年度は増加していた。ユーザーの中での、アクセス数が増加したのか、

スマートフォンの所持率の増加なのかはこのデータだけでは判断できない。

2. 滞日外国人若者の予防介入研究

研究2：ラテン系滞日外国人に対する予防啓発手法の開発に関する研究 (web + peer-based intervention)

「日本におけるブラジル青少年を対象とした予防教育に関する研究」

研究グループメンバー

岩木 エリーザ	(特定非営利活動法人 CRIATIVOS-HIV・STD 関連支援センター)
比嘉 アレシャンドレ	(特定非営利活動法人 CRIATIVOS-HIV・STD 関連支援センター)
木本 カリナ	(特定非営利活動法人 CRIATIVOS-HIV・STD 関連支援センター)
中森 ジュリア	(特定非営利活動法人 CRIATIVOS-HIV・STD 関連支援センター)
西村 由実子	(関西看護医療大学看護学部)
P. Sugimoto	(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)
T. Techasrivichien	(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)
Patou Musumari	(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)
Bhekumusa Lukheel	(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)
Christina El-Saedi	(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)
木原 正博	(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)
木原 雅子	(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)

『背景』

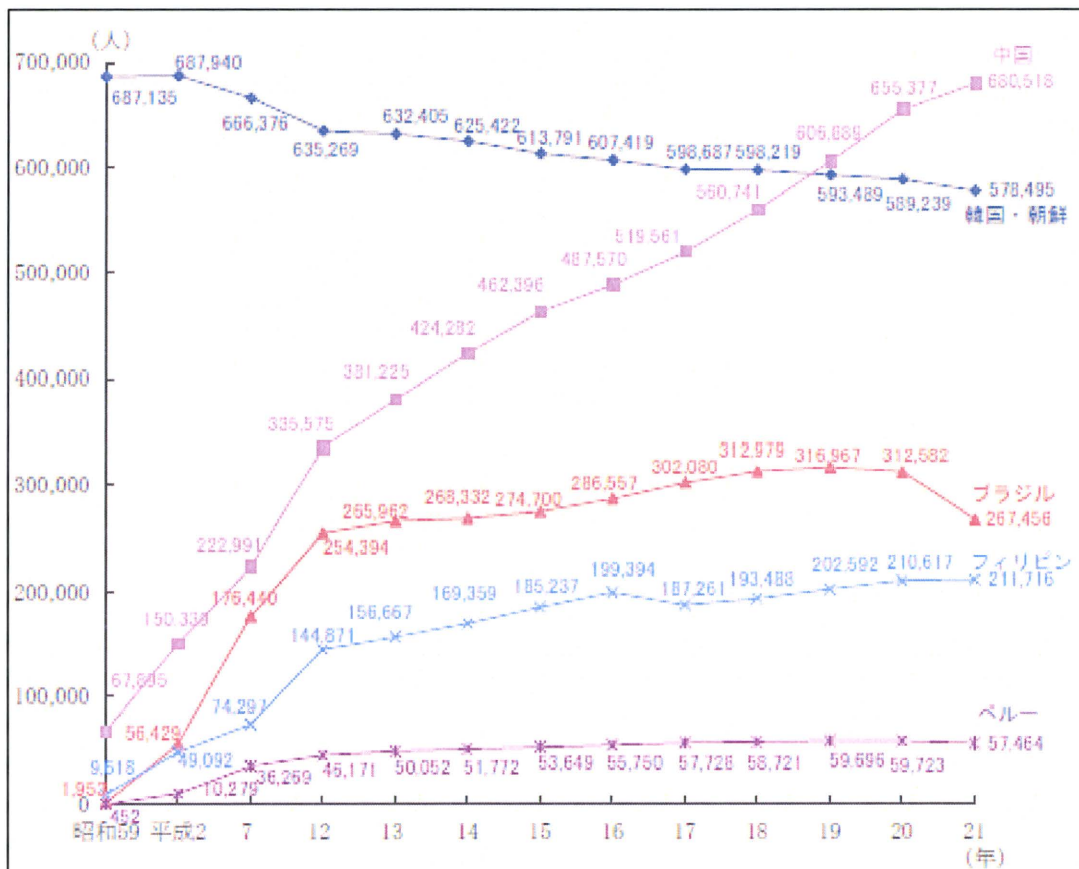
1980年代、バブル経済により労働者が不足状態にあった日本に、日本政府は1990年に「出入国及び難民認定法（入管法）」を改正し、三世までの日系人とその配偶者に、単純労働の就労を可能とする特定ビザを発給できるようにし、労働者不足に歯止めを打つための政策のひとつであった。

そして、当時、経済危機にあったブラジル、ペルーなど、ラテンアメリカ諸国の日系コミュニティを対象に、日本での就労を働きかけ、移住労働者の募集を行った。日系人コミュニティとは戦前、戦後の日本における移住政策にそって南米の国々に渡った多くの日本人とその子孫で形成している。

入管法の改正、移住労働者の募集の結果、多くの日系人が来日し、一時期、在日ブラジル人住民コミュニティは約317万人までに増加したが、米国のリーマンショックから発展した経済危機を境に、在日ブラジル人住民の数が大きく変化し、減少しはじめ、2010年末現在の法務省入国管理局¹の報告によると、外国人登録をしているブラジル国籍の外国人登録者は約5万人少ない、267,456人であった。(図1)

加えて、よくコミュニティにおいて聞き取る情報で、外国時登録証を市町村に戻さず、直ぐ再来日する、と言う考えで、持ったまま帰国する人も多く、実際に帰国したブラジル人は約6万人にのぼるのではないかと推定されている。

図1：主な国籍（出身地）別外国人登録者数の推移



出典：法務省入国管理局編「在留外国人統計」、平成22年版。

在日ブラジル人住民の人口減少がよく分かる、最もブラジル国籍の住民が在住している愛知県と静岡県でそのコミュニティの激変をみると、愛知県では2年間で

14,191人の減少、そして、静岡県でも14,343人の減少であった。(各県政の報告により)(表1)

	2008年	2009年	2010年
愛知県	73,706人	67,125	59,515
静岡県	51,563	42,513	37,220

また、在日ブラジル人の青少年に関しては、ブラジル人保育園に通う児童数を省いて、2008年には6,373人がブラジル人学校の小中高に通っていたが、2009年には3,881人に減少していた。そして、ブラジル人学校

の数も、2008年には約100校あったものが、2010年12月現在では、約60校に減少した。(AEBJ、Alternativaの調査による)

一方でプライベートであるブラジル人学校を辞めざるを得ない子どもの受け皿

として公立があるが、日本語の壁が大きいものであった。そこで、「虹の架け橋」など、日本語の支援を行う活動が拡大し、多くの子どもが日本の公立学校に編入できたと推定される。

他方で、コミュニティーの声からは、out of schoolの子ども・青少年も数多く存在し、または、より早く工場のラインに入り、大人と同様に仕事をしている若者が多

く存在することはよく見聞きするが、その数は把握できていない。

このように、劇的に変化している在日ブラジル人コミュニティーにおいて、HIV関連の予防教育研究の展開は非常に難しいものであったが、ボーダレス、また、場所や時間を問わないインターネットの環境及び、ブラジル人学校における講演会を通しての予防教育に望んだ。

『目的』

日本に住んでいるよい多くの青少年、特に、ブラジル人学校に通っている若者を対象に HIV の予防教育に関する介入とその評

価を繰り返して、より浸透度の高い、かつ予防認識・態度に繋がる教育方法を見出すことを目的とする。

『方法』

当研究は、2つのホームページを通して情報提供を行っている。1つは若者を主としたホームページで、若者と一緒で作っているのもであり、HIV に留まらず、若者のセクシュアルヘルスやその時期の特有なテーマについても扱っている。

もう1つは、大人向けのホームページであり、主に HIV に関する情報や、HIV 検査について及び、HIV 陽性者向けの情報を提供している。

昨年度は主に、ホームページの開設に集中し、今年度はその浸透を促す活動を行った。

上記の2つのホームページの周知拡大を目的に、①エイズデーに伴って、ポルトガル語メディアにおける取材及び宣伝を実施した。

加えて、ホームページによる情報提供と共に、直接的な介入として、②ブラジル人学校における講演会を行った。

当研究グループでは、ここ数年、継続的にブラジル人における HIV 予防教育介入を実施している。今までの介入評価の結果により、いわゆる、HIV 関連の知識の上昇における効果は見られるが、「コンドーム使用

への実現力の belief」、「赤ちゃんをまだ望まないときの否認法の実現力への belief」、など、態度の部分では明らかな介入の影響は検証されていない。(平成 19, 20, 21 年の研究報告書を参照)

従って、今年度は HIV 関連の知識ではなく、感情に訴える講演会を目的として、ブラジルから PWHA かつ活動家である若者を通じて介入を実施した。

また、招聘された若者は、ブラジル人学校の生徒を対象とした講演会に加えて、メディアを通しての HIV 予防情報及びホームページの周知を狙った。

講演会の内容と流れ：

1-時間：90分～120分

2-自己紹介（現在の活動：ブラジルでの活動家としての活動の紹介）

3-ライフヒストリー：生後6ヶ月に里親に出されてからのライフヒストリー、実の親の存在とエイズによって亡くなったこと、HIV とともに生きる幼児期の話し、学校生活、HIV 陽性者であるこ

とを両親から告がれたときの話し、自分自身が持っていた（特にゲイと黒人に対して）が無くなっていくプロセス、HIVを受け入れるまでのプロセス、思春期時に荒れて、里親を恨み、社会を恨んで、それから「人権」を基本する活動家としての自己開発のプロセス

4-家族の大切さ、両親への感謝と尊敬：荒れた時期から現在の自分の人生を振り返って、両親の存在の大切さの話

5-恋愛や付き合い、責任のある性関係について：自分自身が HIV に感染していて、相手に移さない責任感、自分自身が他の性感染症に掛からないための自分自身への責任感、相手を思う責任に加えて、女性は自分の体と自分を守る責任感、男性は女性を尊重する責任感

6-HIVに関する感染経路とコンドームの必要性

7-ディスカッション：ディスカッションでは、主な質問は講演者自身の人生についてであった。HIV とともに生きることの辛さや、両親への思い、恋人に HIV のことをどのように話すか、性関係のテーマでどのように相手に話しするのか、などであった。

8-vidadolescente ホームページの紹介、ホームページアドレスが記載されているカードおよび、パンフレットの配布、メールアドレスの交換

ブラジルの若者を招聘しての介入実施は下記のスケジュールで行った：

① メディアへの周知：

a. ラジオ番組における周知活動：

11月27日 浜松市を中心に聞かれている Radio Fenix において出演

b. SKYPERFECT TV ポルトガル語チャ

ンネル IPCTV ニュース番組における周知活動：11月23日 横浜市会場における取材

c. ポルトガル語フリーペーパー (Alternativa) を通しての周知活動：取材を得て、12月号にて記載

②ブラジル人学校における HIV 関連の講演会を機会に、ホームページのアドレスが記載されている名刺を渡した。(添付資料1を参照)

講演会を実施した学校と日程は下記の通りである：

ア) 11月24日 Santana ブラジル人学校 (滋賀県)

イ) 11月25日 Instituto Educare ブラジル人学校 (茨城県)

ウ) 11月25日 Colegio Opcao ブラジル人学校 (茨城県)

エ) 11月26日 Colegio Desafio ブラジル人学校 (長野県)

オ) 11月30日 Nippaku 学園 ブラジル人学校 (群馬県)

なお、ホームページの周知を促す目的と共に、ブラジル人学校における直接的な介入は研究全体のバロメーターとして実施する、すなわち、講演会の効果評価及び若者の変化を察知する目的もある。

従って、各学校における講演会の約1ヶ月～2週間前に事前調査（無記名自己記入式アンケート調査票）を実施した。

アンケート調査票は、年次の傾向を調べるために、2 昨年前のものと同様のものを使用した。(添付資料2を参照)

調査項目は「属性」、「日本における滞在への満足度」、「インターネットアクセス状況」、「タバコ、アルコールなどの経験」、「その場限りの付き合い関連」、「ステディな恋愛関連」、「性交渉経験関連」、「HIV・STD・避妊などについての知識」、「性交渉への容認」、「避妊や予防への態度」、「当研究のパンフレットやホームページへの暴露につい

て」などであった。

また、講演会の2ヶ月後に事後調査（無記名自己記入式アンケート調査票）及び、3校における講演会の1週間後にグループインタビューを実施した。

講演会後のアンケート調査票は、主に「属性」及び「HIV・STD・避妊などについての知識」、「性交渉への容認」、「避妊や予防への態度」、「当研究のパンフレットやホームページへの暴露について」であった。また、「講演会への意見」や「印象に残った話」を自由に書く欄を設けた。（添付資料3を参照）

そして、講演会後のインタビューの内容としては、主に「講演会で最も印象に残り」、「インタビューの時までどのような話を思い出すか」、であった。講演会実施後

のグループインタビューを実施した学校、日時、参加人数、年齢や性別は下記の通りである：

- a. 12月8日 Colegio Opcao ブラジル人学校（茨城県）
参加者：7名（男子3名、女子4名）：、女2名12歳、女13歳、男13歳、女15歳、男15歳、男17歳。
- b. 12月10日 Colegio Desafio ブラジル人学校（長野県）
参加者：10名（男子7名、女子3名）：女13歳、男13歳、女2名14歳、男2名14歳、男15歳、男2名16歳、男17歳。
- c. 12月16日 Nippaku 学園 ブラジル人学校（群馬県）
参加者：7名（男子3名、女子4名）：女13歳2名、女14歳、女15歳、男14歳、男15歳、男16歳。

『結果・分析』

(1) 【若者向けの HP への暴露について】

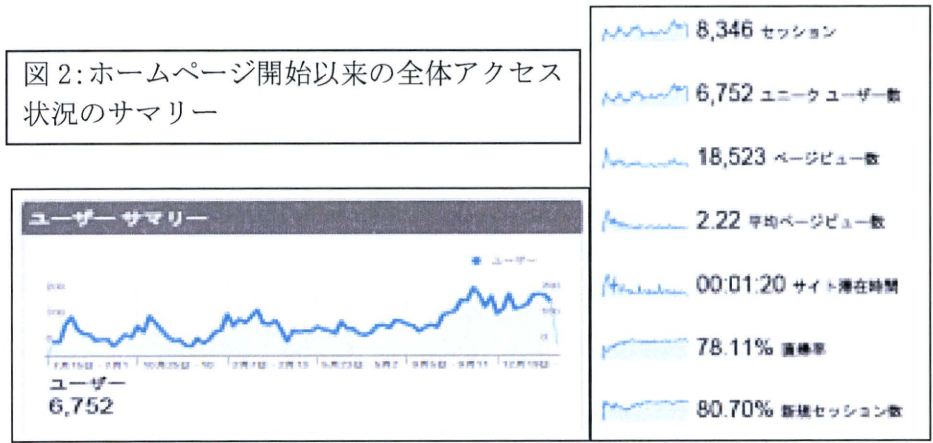
今年度の 2 つのホームページの周知拡大に関して、まず、全体のアクセス状況を把握し、そして、2 つの比較グループを設け、その比較を行った。2 つのグループとは、1 つは、今年度において宣伝に力を入れた時期(2010 年 11 月 1 日～2011 年 1 月 31 日)

と、特に大々的に宣伝をしなかった同じ時期 (2009 年 11 月 1 日～2010 年 1 月 31 日) の、2 つの時期における HP へのアクセス状況を google analytics による比較を行い、分析を行った。

A. 「全体のアクセス状況」

2009 年 7 月 14 日の立ち上げから、2011 年 2 月 28 日までの利用者数は 6,752 であり、図の通り、上昇傾向であると見られる。そして、その利用状況としては、このユー

ザーが回覧したページ数は 18,523 ページで、ホームページへの平均滞在時間は 1 分 20 秒であった。(図 2)



また、検索キーワードで最も使用されたキーワードは、「コンドームの種類」である。そして、次に、ホームページの名前「vidadolescente」であった。(図 3)

(図 3 : HP 開始以来の検索ワードにおける「最も使用されたことば」)

キーワード	セッション	セッション数の割合	
tipos de camisinha	2,070	35.71%	コンドームの種類
vidadolescente	254	4.38%	vidadolescente
tipos de camisinhas	236	4.07%	コンドームの種類
o que é ser virgem	152	2.62%	Virgem とは何か
nutrição na adolescência	86	1.48%	思春期と栄養について

ホームページへのアクセス地域としては、36の国からアクセスがあり、アクセスランキング1位が「ブラジル」で5,618、2位が「日本」で2,377であった。そして、それぞれの国のページへの平均滞在時間と平均

閲覧ページ数は、ブラジルが26秒で1.26ページ、そして、日本においては滞在平均時間が3分37秒と平均閲覧ページ数は4.63ページであった。(図4)

(図4：HP開始以来「アクセス地域」の分布)

36国/地域からのセッション数 8,346					
利用状況					
セッション	セッションあたりの 閲覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率	
8,346 サイト全体の割合: 100.00%	2.22 サイトの平均: 2.22 (0.00%)	00:01:20 サイトの平均: 00:01:20 (0.00%)	80.76% サイトの平均: 80.70% (0.07%)	78.11% サイトの平均: 78.11% (0.00%)	
国/地域	セッション	セッションあたりの閲覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率
Brazil	5,618	1.26	00:00:26	97.24%	90.44%
Japan	2,377	4.63	00:03:37	39.86%	47.20%
Portugal	186	1.15	00:00:14	97.45%	91.84%
United States	49	1.18	00:00:03	89.80%	87.76%
(not set)	28	1.11	00:00:47	92.86%	92.86%
Angola	8	1.00	00:00:00	100.00%	100.00%
Mozambique	7	1.00	00:00:00	100.00%	100.00%
United Kingdom	7	2.00	00:00:49	71.43%	85.71%
Canada	6	1.17	00:00:00	83.33%	83.33%
France	4	1.50	00:00:00	75.00%	75.00%
Italy	4	1.75	00:00:28	100.00%	75.00%
Cape Verde	4	1.00	00:00:00	100.00%	100.00%

B. 「全体のアクセスにおける国別比較」

当ホームページの対象者は日本在住のブラジル人若者である。しかし、全体のアクセスを見ると、立ち上げの2009年07月14日～2001年2月28日までの間、ブラジル国からのアクセスが最も多く、5,618セッションへアクセスがあり、平均閲覧ページ数は1.26で、平均滞在時間は26秒であった。そして、サイトへの平均滞在時間とし

ていは、1セッションで56ページを閲覧し、38分15秒滞在したのが最も長いものであった。(図5)

そして、セッション数として最もアクセスが多かったブラジルの都市は「サンパウロ」で885セッションで、セッションあたりの閲覧ページ数は1.26ページ、また、平均滞在時間は27秒であった。(図6)

(図 5 : HP 開始以来、ブラジル国からのアクセス地域分布 - 回覧ページの多い順)

この国/地域からのセッション数 5,618、354 種類の都市						
利用状況						
セッション	セッションあたりの回覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率		
5,618 サイト全体の割合: 67.31%	1.26 サイトの平均: 2.22 (-43.11%)	00:00:26 サイトの平均: 00:01:20 (-67.66%)	97.24% サイトの平均: 80.70% (20.50%)	90.44% サイトの平均: 78.11% (15.79%)		
都市	セッション	セッションあたりの回覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率	
Castelo	1	56.00	00:38:15	100.00%	0.00%	
Santarem	1	2.00	00:11:03	100.00%	0.00%	
Dourados	7	4.00	00:10:35	100.00%	71.43%	
Tres Pontas	1	2.00	00:07:41	100.00%	0.00%	
Botucatu	6	2.83	00:06:11	66.67%	33.33%	
Conquista	1	2.00	00:05:49	100.00%	0.00%	
Ipatinga	1	2.00	00:04:58	100.00%	0.00%	
Teofilo Otoni	3	3.33	00:04:52	100.00%	66.67%	
Macapa	6	2.83	00:04:41	100.00%	63.33%	
Divinopolis	2	1.50	00:03:36	100.00%	50.00%	
Suzano	12	2.42	00:03:32	91.67%	63.33%	

(図 6 : HP 開始以来、ブラジル国からのアクセス地域分布 - セッションの多い順)

都市	セッション	セッションあたりの回覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率	
Sao Paulo	885	1.26	00:00:27	98.64%	90.28%	
Rio de Janeiro	475	1.30	00:00:25	98.74%	91.58%	
Belo Horizonte	229	1.19	00:00:22	96.51%	89.08%	
Salvador	197	1.10	00:00:07	96.95%	92.39%	
Fortaleza	197	1.13	00:00:34	97.46%	93.40%	
Recife	197	1.77	00:00:59	93.91%	87.82%	
Brasilia	193	1.06	00:00:02	97.93%	96.37%	
Curitiba	167	1.08	00:00:04	98.20%	94.61%	
Campinas	131	1.40	00:00:09	95.42%	91.60%	
Porto Alegre	130	1.25	00:00:28	99.23%	90.77%	

一方、日本国内のアクセスについては、2,377 セッションが見られ、平均回覧ページ数は4.63 ページであった。そして、最も滞在時間が長かったのは40分15秒で、1セッションで64 ページを回覧したアクセスであった。(図7)

また、日本国内からのアクセスで、最も多かった地域は「東京」で、415 セッションであり、そのセッションあたりの回覧ページ数は2.56 で、平均滞在時間は1分36秒であった。(図8)

(図7：HP 開始以来、日本国内からのアクセス分布 - 回覧ページ数の多い順)

この国/地域からのセッション数 2,377、175 種類の都市						
利用状況						
セッション	セッションあたりの回覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率		
2,377 サイト全体の割合: 28.48%	4.63 サイトの平均: 2.22 (100.64%)	00:03:37 サイトの平均: 00:01:20 (172.51%)	39.88% サイトの平均: 80.70% (-50.58%)	47.20% サイトの平均: 78.11% (-39.57%)		
都市	セッション	セッションあたりの回覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率	
Machida	1	64.00	00:40:15	0.00%	0.00%	
Oyama	1	85.00	00:31:19	100.00%	0.00%	
Saga	1	35.00	00:31:12	100.00%	0.00%	
Urasoe	1	2.00	00:24:45	100.00%	0.00%	
Komae	1	62.00	00:24:28	100.00%	0.00%	
Haibara	1	14.00	00:20:45	100.00%	0.00%	
Okazaki	4	12.50	00:20:01	50.00%	0.00%	
Sendai	2	14.00	00:18:39	50.00%	50.00%	
Kita	1	38.00	00:18:24	100.00%	0.00%	
Nishinomiya	1	18.00	00:18:10	100.00%	0.00%	
Mito	2	6.50	00:17:45	100.00%	0.00%	

(図8：ホームページ開始以来、日本国内からのアクセス分布 - セッションの多い順)

都市	セッション	セッションあたりの回覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率	
Tokyo	415	2.56	00:01:36	17.59%	72.77%	
Shibuya	200	1.88	00:01:04	20.50%	78.00%	
Hodogaya	199	5.40	00:05:14	16.58%	45.23%	
Hodogaya	188	5.55	00:06:57	8.91%	20.74%	
Kawaguchi	101	2.12	00:01:44	8.91%	76.24%	
Nagoya	84	3.44	00:02:58	79.76%	47.62%	
Nagoya	75	7.88	00:04:26	82.67%	22.67%	
Saiwai	67	8.09	00:04:58	25.37%	23.88%	
Kizuki	63	4.60	00:03:02	22.22%	28.57%	
Yokohama	58	4.52	00:06:08	12.07%	8.62%	
Kanagawa	53	3.32	00:01:41	33.96%	56.60%	

さらに、国別でホームページアクセスへのリピーターについては、「ブラジル国」のリピーター率は5,618セッションのうち、155セッションの約3%に対し、「日本国内」のリピーター率は約60%(2,377のうち1,429セッション)である。

そして、「ブラジル」からのアクセスについて、リピーターの1セッションあたりの回覧ページ数は2.05ページで、新規セッションでは1.26ページで、また、平均滞在時間はリピーターで1分23秒で、新規では26秒であった。(図9)

(図9：ブラジル国及び日本国内からのアクセスにおけるリピーター状況)

ブラジル国からのアクセスにおけるリピーター状況				
セッション	セッションあたりの回覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率
5,618 リピーター: 155	1.26 リピーター: 2.05	00:00:26 リピーター: 00:01:23	97.24% リピーター: 0.00%	90.44% リピーター: 69.66%
日本国内からのアクセスにおけるリピーター状況				
セッション	セッションあたりの回覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率
2,377 リピーター: 1,429	4.63 リピーター: 3.62	00:03:37 リピーター: 00:03:15	39.88% リピーター: 0.00%	47.20% リピーター: 63.81%

C. 「昨年度と今年度における、周知拡大のための介入期間の期間比較」

2009年7月14日にホームページを立ち上げ以降の周知に関する活動は小さく(昨年度の報告書参照)、しかし、今年度に関しては、周知拡大のため、いくつかの手段をとり、宣伝活動に当たった。従って、2つの時期を比較し、周知拡大の影響を分析した。

なお、比較対象となる時期としては、エイズ関連の話題が盛んである、エイズデー前後とし、「2009年11月01～2010年1月31日」と「2010年11月1日～2011年1月31日」であった。

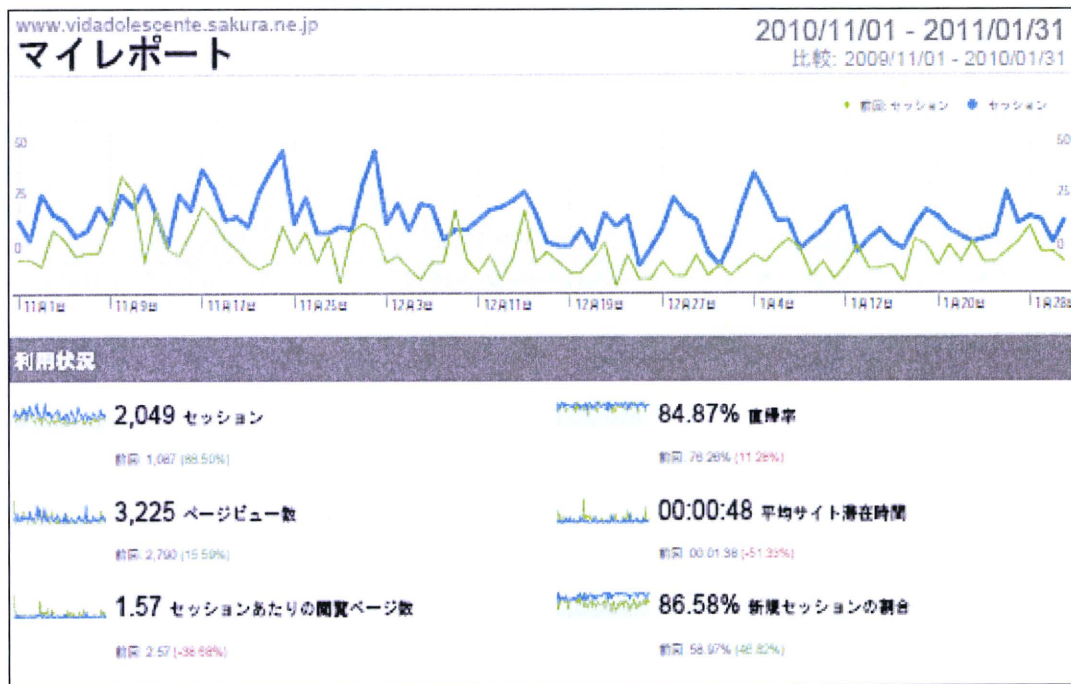
対象時期の比較により、昨年度と比べて、今年度のアクセス数が明らかに上昇していることが分かった。昨年度の「2009年11月01～2010年1月31日」の間のアクセス数は1,087セッションであったのに対し、

今年度の「2010年11月1日～2011年1月31日」の間のアクセス数は2,049セッションであった。

回覧セッションに伴い、回覧ページ数も前期では2,790ページであったのに対し、今期では3,225ページであった。

しかし、1回のセッションあたりの平均回覧ページ数に関しては、前回は2.57ページであったのに対し、今回の回覧ページ数は1.57であった。また、回覧時間の平均も、前回に比べ、今回が短くなっていることが判明した。前期の平均滞在時間は1分38秒、そして、今期の平均滞在時間は48秒であった。(図10)

(図 10 : HP の周知拡大介入における全体のアクセス状況 : 非周知介入 対 周知拡大介入 時期)



そして、アクセスもとの国に関しては、昨年度と今年度の同時期を比較すると、「ブラジル」国におけるアクセス上昇率が約 187%であったのに対し、「日本」国内では、約 20%減少した結果となった。(図 11)

また、ブラジルと日本以外からのアクセスについては、同じポルトガル語を母語とする「ポルトガル」国が上げられるが、この国に関しては、前記と今期の比較により、今期では約 139%のアクセス上昇があった。

しかし、ブラジル国からのアクセスに関しては、前期と今期を比較すると、セッションあたりの平均閲覧ページ数や平均サイト滞在時間が減少し、それぞれ、約 24%と約 54%減少した。また、日本国内からのアクセスについても、減少幅は小さかったも

の、前記と今期の比較で、セッションあたりの閲覧ページ数は約 14%、そして、サイトへの平均接続時間は 0.53%減少した。

そして、全体から見て初めてサイトにアクセスを前記と今期を比較すると、ブラジル国からのもので、前記及び後期共に約 97%であったのに対し、日本国内では前記が約 18%で今期が約 46%であった。

加えて、サイトへ入って 1 ページのみを閲覧し、離脱するケースを国と前期・今期で分析すると、ブラジルからのアクセスで、前記は約 87%、今期は約 93%の離脱率があり、もう一方では、日本国内に関しては、前記の離脱が約 65%で、今期はそれより少なく約 53%であった。(図 11)

(図 11：HP の周知拡大介入における全体のアクセス状況：非周知介入 対 周知拡大介入時期 — ブラジル国と日本国内からのアクセスの比較表)

24 国/地域からのセッション数 2,049						
利用状況						
セッション	セッションあたりの閲覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率		
2,049 前週: 1,087 (53.10%)	1.57 前週: 2.57 (-38.68%)	00:00:48 前週: 00:01:38 (-51.33%)	86.58% 前週: 59.06% (46.59%)	84.87% 前週: 76.26% (11.28%)		
国/地域	セッション	セッションあたりの閲覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合	直帰率	
Brazil						
2010年11月1日 - 2011年1月31日	1,502	1.17	00:00:19	97.07%	93.08%	
2009年11月1日 - 2010年1月31日	524	1.54	00:00:40	97.52%	86.26%	
変化率	188.64%	-24.21%	-53.61%	-0.46%	7.90%	
Japan						
2010年11月1日 - 2011年1月31日	415	3.19	00:02:43	46.27%	53.49%	
2009年11月1日 - 2010年1月31日	525	3.70	00:02:43	17.71%	65.14%	
変化率	-20.95%	-13.80%	-0.53%	161.17%	-17.88%	
Portugal						
2010年11月1日 - 2011年1月31日	67	1.18	00:00:24	94.03%	88.06%	
2009年11月1日 - 2010年1月31日	28	1.11	00:00:04	100.00%	89.29%	
変化率	139.29%	6.50%	451.57%	-5.97%	-1.37%	

全体的にコンテンツへのアクセスを今年度において、周知拡大を目的とした介入時期と昨年度の同時期を比較すると、最も見られている内容は「コンドームの種類」であり、次に「virgin とはなにか」であったが、その多くはブラジルからのアクセスによるもので、特に今期（2010-2011）における上昇である。例えば、前期における「コンドームの種類」コンテンツへのアクセスは 300 セッションで、今期は 685 セッションで、約 128% の上昇であったが、今期における「ブラジル」からのアクセスが 685 セッションであった。また、「virgin であることはなにか」についても、ブラジル国からのア

クセスが最も多く、前期は僅か 2 セッションであったのに対し、今期は 411 セッションであった。

一方、日本国内からのアクセスにおける、同じく、ホームページの周知に関する介入の効果进行分析のために、アクセス数において、昨年度と今年度の同時期を比較すると、減少しているものの「vidadolescente」、つまり、ホームページのカバーページ及び、HP 全体においてのページが最も見られていて、そして、「日本におけるブラジル人若者と語り合う」、「STD について」などについてが最もアクセス数が多いことが分かった。

(図 12)

(図 12 : HP の周知拡大介入における全体のアクセス状況 : 非周知介入 対 周知拡大介入
 時期 — 検索ワードにおける国別比較 (セッションの多い順))

Tipos de camisinha	Brazil				コンドームの種類
2010年11月1日 - 2011年1月31日		685	659	00:01:29	
2009年11月1日 - 2010年1月31日		300	281	00:01:19	
変化率		128.33%	134.52%	12.82%	
O que é ser virgem ?	Brazil				Virginであることは
2010年11月1日 - 2011年1月31日		411	392	00:07:49	
2009年11月1日 - 2010年1月31日		2	2	00:00:00	
変化率		20,450.00 %	19,500.00 %	100.00%	
Vidadolescente	Japan				vidadolescente(10代の生活)
2010年11月1日 - 2011年1月31日		351	239	00:01:01	
2009年11月1日 - 2010年1月31日		812	531	00:01:18	
変化率		-56.77%	-54.99%	-21.42%	
Você sabe qual é a camisinha mais fina do mundo ?	Brazil				世界で最も薄いコンドーム、知っている？
2010年11月1日 - 2011年1月31日		103	98	00:05:02	
2009年11月1日 - 2010年1月31日		0	0	00:00:00	
変化率		100.00%	100.00%	100.00%	
Um bate-papo com os estudantes das escolas brasileiras no Japão	Japan				日本におけるブラジル人若者学生と語り合う
2010年11月1日 - 2011年1月31日		92	76	00:02:05	
2009年11月1日 - 2010年1月31日		0	0	00:00:00	
変化率		100.00%	100.00%	100.00%	
Tipos de DST	Japan				STDについて
2010年11月1日 - 2011年1月31日		83	49	00:00:28	
2009年11月1日 - 2010年1月31日		82	42	00:00:33	
変化率		1.22%	16.67%	-13.93%	
Fique por dentro	Japan				知っておいておこう
2010年11月1日 - 2011年1月31日		82	49	00:00:31	
2009年11月1日 - 2010年1月31日		132	81	00:00:32	
変化率		-37.88%	-39.51%	-2.60%	
Nutrição e Adolescência	Brazil				思春期と栄養
2010年11月1日 - 2011年1月31日		73	69	00:03:02	
2009年11月1日 - 2010年1月31日		76	70	00:03:32	
変化率		-3.95%	-1.43%	-14.18%	

(2)【ブラジル人学校を対象に直接的な予防教育介入のアンケート調査】

a. 「事前アンケート調査」

1. (男女別、単純集計の結果)

「回収率」 ブラジル人学校を対象に講演 (82/98) であった。(表 2)
会前のアンケート調査回収率は約 84%

(表 2：ブラジル人学校を対象に直接的な予防教育介入の事前アンケート調査 - 男女)

有効回収率	度数	パーセント
女	41	50.0
男	41	50.0
合計	82	100.0

「属性」

男女比は 1 : 1 (男 : 41/女 : 41) であった。

平均年齢は女子で 14.51 歳 (±1.74 歳、中央値 : 14 歳)、そして、男子の平均年齢は 15.17 歳 (±1.53 歳、中央値 : 15 歳)

であった。

学歴に関しては女子では、46.3%が高 1-3 の生徒で、また、中 1-3 が 36.6% であった。そして、男子では 48.7% が高校生で、46.1% が中学生であった。(表 3)

(表 2：ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・学年分布)

性別	学年	度数	有効パーセント	性別	学年	度数	有効パーセント	
女子	高1	10	24.4	男子	高1	10	25.6	
	高2	7	17.1		高2	7	17.9	
	高3	2	4.9		高3	2	5.1	
	小5	2	4.9					
	小6	5	12.2		小6	2	5.1	
	中1	3	7.3		中1	7	17.9	
	中2	8	19.5		中2	7	17.9	
	中3	4	9.8		中3	4	10.3	
	合計	41	100.0		合計	39	100.0	

「日本滞在」に関しては、女子では 41.5% が「以前にも日本に住んだ経験がある」と答えて、22% が「日本生まれで、ブラジルに行ったことはある」と答えた、また、「初めて日本に来た」と回答した女子は 29.3% であった。男子に関しては、「以前にも日本

に住んだ経験がある」と回答した生徒は 39% で、「日本生まれで、ブラジルに行ったことはある」と回答した男子は 29.3%、そして、「初めて日本に来た」と答えた人は 31.7% であった。(表 4)

(表4: ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・来日状況)

性別	来日・滞在における状況	度数	有効パーセント
女子	日本生まれ、ブラジル行ったことなし	3	7.3
	日本生まれ、ブラジル行ったことあり	9	22.0
	初めて日本に来た	12	29.3
	以前日本に住んで、今回も居住	17	41.5
	合計	41	100.0
男子	日本生まれ、ブラジル行ったことあり	12	29.3
	初めて日本に来た	13	31.7
	以前日本に住んで、今回も居住	16	39.0
	合計	41	100.0

そして、日本滞在への満足度について、女子では「とても好き」と「好き」を合わせても、48.8%が日本に住んで満足していると見られる、また、36.6%が「まあまあ」と回答し、「余り好きではない」、「全く好きでない」及び「分からない」と合わせると14.6%を占めている。

一方、男子では、63.4%が「とても好き」又は「好き」と回答し、26.8%が「まあまあ」、そして、満足していないと考える人は僅か9.7%（「余り好きではない」+「全く好きでない」+「分からない」）であった。（表5）

(表5: ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・日本滞在への満足度)

性別	日本に住むのが好きですか？	度数	有効パーセント
女子	1. とても好き	8	19.5
	2. 好き	12	29.3
	3. まあまあ	15	36.6
	4. あまり好きではない	4	9.8
	5. まったく好きでない	1	2.4
	6. 分からない	1	2.4
	合計	41	100.0
男子	1. とても好き	9	22.0
	2. 好き	17	41.5
	3. まあまあ	11	26.8
	4. あまり好きではない	1	2.4
	5. まったく好きでない	1	2.4
	6. 分からない	2	4.9
	合計	41	100.0

「将来への目標・希望・展望」においての生活拠点を“ブラジル”または“日本”におくかについては、複数回答で女子では最も多かった選択は「ブラジルで大学進学」

で、80.5%であり、そして、ブラジル国で「就職」、「住む」の選んだ生徒はそれぞれ7.3%と12.2%であり、「何かのプロフェッショナルになる」の回答は56.1%に上った。

なお、日本における「大学進学」、「就職」、「住む」、「何かのプロフェショナルになる」、「ブラジルで大学卒業後日本で仕事」を回答した生徒の割合は、7.3%から9.8%を占め、「日本で仕事をしてブラジルへ帰る」と回答した女子が12.2%であった。

一方、男子では「ブラジルで大学進学」をしたいと回答した生徒は女子より少なく51.2%であった。また、ブラジル国で「就

職」、「住む」、「何かのプロフェショナルになる」と回答を選んだ生徒はそれぞれ17.1%、12.2%と26.8%であり、やはりこれも女子より少ないものであった。

そして、日本における「大学進学」、「就職」、「住む」、「何かのプロフェショナルになる」の回答率は14.6%から19.5%の間で、「ブラジルで大学卒業後日本で仕事」を選択した生徒24.4%であった。(表6)

(表6：ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・将来への目標)

性別	将来の目標は何ですか？(複数回答可)	度数	有効%
女子	1. 高校卒業する	28	68.3%
	2. ブラジルで大学進学する	33	80.5%
	3. ブラジルで就職する	3	7.3%
	4. ブラジルに住む	5	12.2%
	5. ブラジルで何かのプロフェショナルになる	23	56.1%
	6. 日本で大学進学する	3	7.3%
	7. 日本で何かのプロフェショナルになる	3	7.3%
	8. 日本に住む	4	9.8%
	9. 日本で就職する	0	.0%
	10. ブラジルで大学卒業後に日本へくる	3	7.3%
	11. 日本で仕事をして、ブラジルに帰る	5	12.2%
	12. その他	5	12.2%
		合計	41
男子	1. 高校卒業する	16	39.0%
	2. ブラジルで大学進学する	21	51.2%
	3. ブラジルで就職する	7	17.1%
	4. ブラジルに住む	5	12.2%
	5. ブラジルで何かのプロフェショナルになる	11	26.8%
	6. 日本で大学進学する	6	14.6%
	7. 日本で何かのプロフェショナルになる	7	17.1%
	8. 日本に住む	8	19.5%
	9. 日本で就職する	6	14.6%
	10. ブラジルで大学卒業後に日本へくる	10	24.4%
	11. 日本で仕事をして、ブラジルに帰る	5	12.2%
	12. その他	7	17.1%
		合計	41

「インターネットにおける経験」については男女共に100%アクセス経験があり、接続する時のその平均接続時間は女子で4.3時間(±3.8)、そして、男子で5.34時間(±3.7時間)であった。(表7)

(表7: ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・インターネット接続の平均時間)

性別	アクセス時間の平均値	度数	アクセス時間の標準偏差	アクセス時間の中央値
女	4.30	41	3.798	3.00
男	5.34	38	3.724	4.50
合計	4.80	79	3.774	4.00

そして、インターネット上での様々な経験について、複数回答で男女ともに最も多かった回答が「友達を作った」(72.5%)であった。そして、女子で次に多かった回答は「ネットで知り合った人に会うように誘われた」で20%であり、男子では「ポルノサイトに入った」で50%であった。(表8)

(表8: ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・インターネット上で経験した出来事の有無)

性別	ネットでの経験(複数回答可)	度数	有効%
女子	1. 友だちを作った	29	72.5%
	2. ネットで知り合った人に会うよう誘われた	8	20.0%
	3. ネットで知り合った人を会うよう誘った	1	2.5%
	4. ポルノサイトに入ったことがある	2	5.0%
	5. 上記の経験はない	10	25.0%
	6. その他	4	10.0%
	合計	40	100.0%
男子	1. 友だちを作った	29	72.5%
	2. ネットで知り合った人に会うよう誘われた	8	20.0%
	3. ネットで知り合った人を会うよう誘った	6	15.0%
	4. ポルノサイトに入ったことがある	20	50.0%
	5. 上記の経験はない	6	15.0%
	6. その他	1	2.5%
	合計	40	100.0%

「若者を脆弱な立場に追い込みやすい経験」について男女共に「飲酒」の経験が最も多く、複数回答で女子の間では50%が飲酒経験をしており、男子では63.4%が飲酒経験があった。そして、次に多かった経験

は「タバコ」であり、女子では20%、男子では29.3%であった。また、男子では、「タバコ」を吸うたことの経験者と「身体的・精神的暴力を受けた(いじめ)」経験者が同じく29.3%であった。(表9)

(表9: ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・若者を脆弱な立場に追い込みやすい様々な経験の有無)

性別	経験の種類 (複数回答可)	度数	有効%
女子	1. タバコ	8	20.0%
	2. 飲酒	20	50.0%
	3. 援助交際	0	.0%
	4. ドラッグ使用	0	.0%
	5. 万引き	0	.0%
	6. 身体的・精神的暴力(いじめ)被害	7	17.5%
	7. 性的暴力を受けた	0	.0%
	8. 暴力をふるった	0	.0%
	9. 自傷行為	2	5.0%
	10. 上記の経験はひとつもない	17	42.5%
	11. その他	0	.0%
	合計	40	100.0%
男子	1. タバコ	12	29.3%
	2. 飲酒	26	63.4%
	3. 援助交際	0	.0%
	4. ドラッグ使用	0	.0%
	5. 万引き	3	7.3%
	6. 身体的・精神的暴力(いじめ)被害	12	29.3%
	7. 性的暴力を受けた	0	.0%
	8. 暴力をふるった	10	24.4%
	9. 自傷行為	5	12.2%
	10. 上記の経験はひとつもない	10	24.4%
	11. その他	0	.0%
	合計	41	100.0%

「付き合いや性経験」に関する質問では、「性経験者」が非常に少なく、男女共に7.3%であった。また、「ステディーな付き合い」についても、経験者は半数以下で、男女共に37.5%であった。そして、「その場限りの付き合い」については、女子で55%が経験があり、男子では62.5%がその場限りの付き合い経験があったと回答した。

(表)

そして、「その場限り」のはじめての付き合い平均年齢は男女共に11歳の後半であった。また、その初めての時の「相手の年齢」については、女子の回答者の相手の平均年齢は約14歳で、男子のは約12歳であった。さらに、「今までの相手の総数」に関しては女子群では平均的に約5人、男子で